

林大の風

第49号 高知県立林業大学校

「林業架線作業主任者講習」

本年も専攻課程森林管理コースと林業技術コースでは、林業架線作業主任者免許を取得すべく、学科講習と実技講習を行いました。

高知県は急峻な地形が多く、昔から架線技術が発達している地域です。この講習では、架線技術を継承し、

将来的に林業架線作業主任者となるために必要な知識と技能の習得を目指します。



受講前に
は、高知県立森林技術センターの山崎課長にご協力いただき、架線作業において覚えておくべき数字（ワイヤクリップの留める間隔や控索を張る上で必要な角度の考え方など）や器具を使ってワイヤーを固定する方法など、講習を受ける上で必要な内容を教えていただきました。

また、林業大学校の実習棟内に設置されている架線シミュレータを使用した運転実習も行い、架線作業についてのイメージを持つこともできました。

学科講習では林業架線に関する基礎的な知識から始めて、関係法令や力学的な計算など幅広い内容を学びます。研修生は、聞き慣れない用語や安全な架設・架線集材作業を行う上で守らなければならぬルールなどをしっかりと学び、全員が無事に学科試験に合格することができました。

実技講習では、実際に現地で索張りを行います。

まずは、集材装置、先柱、元柱などを設置後、ドローンを活用してリードロープを張り、エンドレスラインや主索を順番に架設しました。また、学科講習で学んだ振動波による主索緊張度の検定も行い、安全を確認した後、集材機の運転技術や集材木の荷掛け、無線の伝達方法について学びました。



今回はエンドレスライン式の索張り方式で架設を行いました。

実習ではホールバックラインを動かしながら、エンドレスラインをフリー状態にする操作や必要に応じてブレーキ操作を行うなど、複合的な操作が必要となり、研修生が苦戦する場面もありました。また、班ごとに分かれて、荷下ろし場・先柱側からの無線による指示に



した。加えて、搬器等を集材点から林内に引き戻すための作業索である引戻索（ホールバックライン）も設置しました。そのため、運転した。

従つて架線集材作業の実践を行いました。中でも、集材機からは見えない障害物を避けるために微調整が必要な時には的確な指示を分かりやすく運転者に伝えることが重要であることを学ぶことができました。

今回学んだ技術を活かし、林業架線作業の業務に2年以上従事したあと林業架線作業主任者免許の申請が可能となります。

全国的に見ても先進的な取り組みを行ってきた高知の林業架線技術を、本校研修生が継承し、牽引していくことを願っています。

【基礎課程一研修生のイベント等の参加】

基礎課程では毎年、県内外の関係者と連携し、イベントに参加しています。中でも、目玉となっている2つのイベントに、今年度も参加しましたので、その様子をご紹介します。

① J L C 伐木選手権



国内の林業学校の研修生・生徒が集まり、安全かつ正確な伐木技術を競い合う、J L C 伐木選手権。今年も、専攻課程から3名、基礎課程から3名を選出し、参加しま

あり、研修生にとっても良い刺激になったようで、参加前と後では、どこか顔つきが変わっているようにも見えました。

② どつぶり馬路村（山師達人選手権）

馬路村で働く山師の仕事を競技にした「お山の運動会」。今年は山から下りてきて、高知市南久保にあるJ A 馬路村のアンテナショップで開催されました。



競技の種目は、(1)丸太の合わせ切り(2)簡易伐倒があり、どちらも服装や足を置く位置、安全な伐倒作業に必要な確認指差など、厳密な採点基準のもと、順位が決定されます。

会場の選手や関係者の注目が集まる中、研修生の競技が始まります。

暑い日も寒い日もエンソーソーを手

に練習してきた日々を思いだし、

全集中して競技に臨みましたが、残念ながら入賞とはなりませんでした。

研修生も丸太を人力で切り落とすのは初めての経験でした。手にマメができた者、肩が上がらなくなった者など、満身創痍で奮闘した結果、1位、2位の好成績を納めることができました。

会場では名物の馬路寿司の販売や、『ごっくん



馬路村』の早飲み競争が開催されるなど、大盛り上がりのイベントでした。研修生には、就業後も地域イベントに積極的に参加する人材になってほしいと思います。

冬のオープンキャンパス

12月20日（土）開催

在校生から聞ける学校生活！
実技を体験できる！

キャンパスの雰囲気を体感し、授業や学生生活の魅力を知る機会となっております。

ぜひ、あなたの目で見て、感じてみてください！

◇申込期間

令和7年12月15日（月）まで

申込みは下記のQRコードから！。

check!

